

私たち民医連は、無差別・平等の医療と福祉の実現をめざす組織です

発行所 宮城県民主医療機関連合会
仙台市青葉区木町通1-8-18
〒980-0801 田村ビル5F
TEL 022-265-2601
FAX 022-263-8266
e-mail:dai@miyagi-min.com
発行人 坂田 匠
1日・15日 月2回発行 1部50円

みやぎ民医連

「原爆と人間展」イベント
次世代を生きる高校生と
被爆者との共同制作による
「原爆の絵」
記念講演「原爆の絵を描くことの意義」
講師/橋本一貫さん
日時▶7月23日(金・祝) 14:00~ **入場無料**
会場▶仙台市福祉プラザ2Fふれあいホール
主催/宮城県原爆被害者の会(はぎの会)



年金支給日に合わせて高齢者に詐欺などの消費者被害にあわないよう呼びかける

地域包括支援センターは、65歳以上の方の総合相談窓口として設置されています。退院後の支援でもある、介護の相談は勿論のこと、住まいの事、お金、家族関係、虐待、権利擁護、そして健康づくり、地域づくりと業務は多岐に渡ります。また、社会の縮図のように、1件の相談にも、いろんな課題が重なっています。南光台地域包括支援センターのある仙台市南光台地区は、高齢化率は26・95%で近隣と比較してもそれほど高くないのですが、区内で相談件数がトップクラスで多い地域です。公共交通機関の利便性がよい反面、人の流入が多、宅地開発から50年ほど経ち、戸建ても、安いアパートもある

「公園の水を飲んで遊ぶ、浮浪者みたいな人がいる」との情報で介入した方は、食の確保が度々困難、200mmHg程度の血圧も放置、寒さに震えながら、「寒いからお酒を飲んでた」と暮らしていました。排尿も布団の上、その汚れた服のまま生活するなどセルフネグレクト状態でした。区へ養護老人ホームの対象にしてもらいたいことを打診しても、「今まで自分でしてきたんだから自宅で大丈夫」という回答。泉病院に入院の受け入れをしていただき、検査

SDHの視点をもつて 連携して支援につなげる

南光台地域包括支援センター 芳賀明子



住民どうしが交流するサロンの主催も大事な役割

や入浴支援等が行なわれました。包括の保健師に加え、泉病院の医師や相談員から区の担当者へ、自宅での一人暮らしは生命の維持、疾患管理の点からも、生活の質の面からも困難であることなどを伝えました。この方は、現在は施設入所をしていますが、入院中、食の心配がな

く人との交流があるという環境も、サービスに対し拒否的だった気持ちを变えることができた一因だったと思います。行政から、「大丈夫」といわれた方をSDH(健康の社会的決定要因)の視点をもって支援を止めず、民医連の事業所が連携して行政にかけあいます。一方、痛ましい事例もありません。先日は、「なんとなく心配」とのことです。自宅を訪問してみると、会話はできるものの歩行困難で動けなくなっていました。救急車を要請しましたが、数日後お亡くなりになりました。突然の安否確認の対応も

包括の特徴的な業務です。地域包括支援センターは、地域の中にあり、生活と密着していることで、「なんとなく心配」という相談で、命に差し迫った支援から、人生を重ねた分の課題を紐解くように解決していく等、様々な支援をしています。支援する側も、巻き込まれず、職員1人1人が、お互い疲弊してしまわないよう、笑いのある職場づくりをしています。全国どこにでも地域包括支援センターはありますので、社会資源の一つとして、ぜひご活用ください。

SDHの視点をもつて支援を止める、民医連の事業所が連携して行政にかけあいます。一方、痛ましい事例もありません。先日は、「なんとなく心配」とのことです。自宅を訪問してみると、会話はできるものの歩行困難で動けなくなっていました。救急車を要請しましたが、数日後お亡くなりになりました。突然の安否確認の対応も



コロナ禍での介護予防教室

看護改善の歴史から学んだ

「行動を起こさないと 変わることはない」

長町病院 看護師 中澤 温



「看護師を増やしてください」の署名をお願いします

今回、ナースウエーブ 第二世界大戦では看護学習会に参加しました。看護師の歴史を遡ると、

5月14日、仙台駅前ペDESTリアンデッキにてナースウエーブが行われました。「医療・介護従事者の増員」「保健所の増設・保健師の増員」「コロナ禍から国民のいのちと生活を守る」をスローガンに掲げ、署名を訴えました。15日には、「ナースウエーブ学習会」が塩釜グランドパレスをメイン会場にオンラインで行われました。参加した看護師から感想を寄せていただきました。

こと、結婚前の男女の交際には誓約書が必要なこと、妊娠は許可制であるなど妊娠の自由がなく制限があったこと、産休・育休が取れないこと、夜勤を1人で任せられたり月に15回以上もあったことなど、看護師の扱いや厳しい看護現場について考えさせられる様々な歴史があることがわかりました。

今回の学習会の中で、「行動を起こさないと変わることはない」という言葉がとても印象的でした。今もまだ、看護師不足や看護師の最低賃金が全国一律ではないことなど、看護現場では多くの課題があります。私が看護師の一員となった今、看護現場の改善に向けた様々な活動に積極的に参加し、看護現場がより良いものになるように取り組んでいきたいと思っています。



健康手帳
テレビ番組で妄想トレインという番組があります。自分が気になる線区があるところを見ますが、列車時刻表で空想しながら旅をするテレビ版です。テレビなので実際の景色や関係する映像を交え、その土地に行つたような気にさせる番組です。コロナ禍で旅行に出かけることのできない身には、ありがたいやら、悔しいやら番組です。▼鉄道に限らず旅行関連の番組はたくさん放送されていますが、鉄道の旅、特にローカル線の旅はなぜか特別に楽しく、いつかそこに行つてみたいと思つてしまっています。▼写真家の中井精也さんが写真を撮りながら日本全国のローカル線を取り上げる番組は、そこに生活している人や子ども、その鉄道を日常の足に使っている学生などをほのぼのと取り上げています。他に異色なのは、俳優の六角精児さんの『飲み鉄』です。お酒を飲みながら全国各地の鉄道に乗って様々な土地の名物や酒造蔵を回って歩きます。実家の近所の店が放送された時には驚きました。▼旅番組は自分の知らない日本全国を紹介してくれ、そこでしっかりと生活している人たちがいることも伝えてくれます。誰もが安心して暮らせることが何よりも大事だと思う今日この頃です。

連載 126

私の好きな憲法は何条?

つばさ薬局長町店 事務 千葉 恵理子

今年の憲法記念日の朝日新聞に「男女平等の理念遠い日本」という記事が掲載されました。日本国憲法では男女平等を完全に保障した条文があります。

憲法第14条 すべての国民は、法の下に平等であつて、人種、信条、性別、社会的身分または門地により、政治的・経済的・または社会的関係において差別されない。

しかし記事では、コロナ禍により女性の貧困やDVの相談件数が増加、ジェンダー格差が顕著に表れているなど、施行か

ら74年経った今でも憲法の理念からほど遠い現状が浮き彫りにされています。

世界経済フォーラムが今年3月に発表した「男女平等度を示す「ジェンダーギャップ指数」では、日本はなんと156か国中120位で先進国の中では最下位でした。

特に「政治」分野が際立って低く147位に。東京五輪組織委員会・森喜朗前会長による、女性を軽視したあの呆れた発言が、この順位が正確であることを物語っていますね。

2年前に民医労女性部で、ジェンダー平等な社会をどう作るかをテ

ーマに、東北学院大学の小宮友根准教授を講師にお迎えした学習会が開かれました。内容は

◎日本は戦後復興の国策として「男性が外で働き、女性が家を守る」という制度を作った。

◎男性の長時間労働が普通の働き方では、女性も同様に働き経済的に独立するのは不可能。

◎よって貧困リスクはコネもスキルも持てない女性の方が圧倒的に大きい。

まさにコロナ禍による現状を言い表しており、個人個人が太刀打ちできる問題ではないと改めて認識させられました。

ではジェンダー平等の

表現には何が必要でしょうか。小山先生は、次のように語っています。

◎憲法の理念は大きな存在であり、「私的領域の自由と平等」が大きなカギ。

◎そのための法と制度を。

◎古い考えの昔の政治家ではジェンダー平等実現は難しい。政治を変えることが大切。

最後の言葉、重みがありますね。私が今大切にしたい憲法第14条をご紹介します。



宮城民医連一年目研修第1課

民医連綱領の歴史と実践について学んだ



5月15日、宮城民医連一年目研修第1課が開催されました。県内計7会場 合わせて64名が受講しました。昨年と同様、Zoomで各会場をつな

いでの開催となりました。講師は、宮城民医連

事務局次長の佐藤望さんと、長町病院地域連携・医療相談室の三原章子さんでした。

佐藤望さんからは、「民医連の綱領と歴史」のために、誰のために「綱領の前文と中文の前半部分について講義がありました。さらに、NHKクロアズアップ現代

で放送された「病院、我慢します」コロナ禍で増える「メディアカル・プア」を視聴しました。

三原章子さんからは、「民医連綱領の実践報告」のちと健康を守る民医連医療

「と題して、ソーシャルワーカーについて、事例紹介、そして新入職員の方々に向けて、「患者の声を傾ける」疑問に思ったことを先輩や同僚と共有する」「人権を守る視点を持つ」ことが話されました。

参加者の感想では、「疾患だけ治療して帰すのではなく、生活を考えることから疾患を治療することが大切とわかった」「一人ひとりが健康であるためには、みんなで社会を整えていく必要があると感じた」「憲法13条などで個人の権利は尊重されているのに、国がやろうとしていることはそれに反している、何のための人権なのかと思った」「無料低額診療を初めて知った」「無料低額診療制度の認知度を広めたり明確化する必要があると感じた」「患者さんの声一つ



グランドパレスのメイン会場

一つに耳を傾けることの重要さを感じることもできた」「無差別平等のケアを提供するために、多職種協働の取り組みが大切」などが寄せられました。

昨年はコロナ禍の中、民医連オリエンテーションをはじめ5月の一年目研修第1課も開催できませんでした。感染対策に万全を期して今後とも制度教育は続きます。

(原連事務局 高橋 啓介)

第92回メーデー

コロナ禍のもと

横断幕とポスターで要求をアピール



5月1日、仙台駅ペDESTロリアンデッキで、コロナ禍からのちと雇用、くらしを守り、政治の転換を求める第92回メーデー宮城県集会が行われ約90名が参加しました。

今回のメーデーは昨年から継続している新型コロナウイルスの感染拡大が止まらないなかで、参加者の健康を守ることを第一に、集会とデモ行進は行わず、スタンディングアピールで発信することとしました。

参加団体がそれぞれの要求を掲げた横断幕とポスターを持ち歩き来する市民にメーデーアピールチラシとポケットティッシュを配布しました。

東北労災病院・仙台赤十字病院・県立がんセンターの移転・統合問題、東日本大震災から10年被災者支援、女川原発再稼働問題、コロナ禍での雇用とくらし、水道事業民営化問題などアピールしました。

今年は、8月に仙台市長選挙、10月に宮城県知事選挙、そして総選挙が予定されています。

私達の要求を政治の場に届ける機会として重視していきましょう。



宮城民医連は、8月に仙台市長選挙、10月に宮城県知事選挙、そして総選挙が予定されています。私達の要求を政治の場に届ける機会として重視していきましょう。



声 っ え

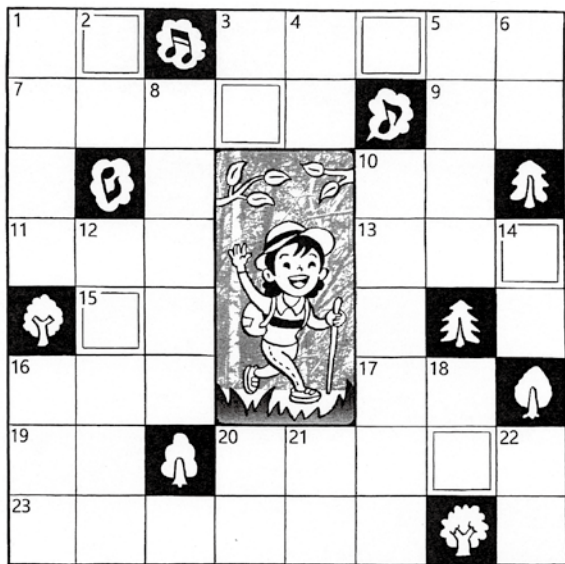
コロナ、コロナに翻弄された1年が過ぎ、今はコロナワクチンに翻弄される日々となっている。毎日のニュースで〇〇県でワクチンを無駄にしたとか、順番を優先したとか、なんだか世知辛い世の中が全面に出たような気がします。でも気持ちはいちいち早くとワクチンを打ち安心して暮らしたい、コロナ前の日常を取り戻したいと思いませんか。誰しもがそう願っています。いつもの日常を取り戻したいですね。

ケアステーション しおかげ 看護師 関 裕子



クロスワード

《解き方》イラストをヒントにして、二重ワクの6文字をうまく並べてできる言葉は？ (作・モロズミ勝)



クイズの解答は事業所名、氏名、職種を記し原連事務局に送って下さい。メールは不可。ファックスは可。正解者に抽選で5人に図書カードを進呈いたします。余白に日頃考えている事などを書き添えて下さい。「声」の欄に掲載させていただく場合があります。応募資格：臨時・パート含む県連職員、締切7月5日当日消印有効。発表7月15日号。4月15日号答え①左端・枕にしている座布団。②左側・腕を枕に寝ている子の左袖。③手前・落ちていたボールの向き。④中央・奥の子の右目。⑤右側・足を枕に寝ている子の口。⑥右奥の戸の位置。⑦犬が枕にしている足の靴下の有無。応募総数17件。

当選者：藤原あづさ／しほ協同クリニック、三川孝子／下馬みどり保育園、芳賀明子／南光台地域包括センター、阿部成美／つばさ薬局多賀城店、橋本さゆり／県連事務局(敬称省略)

1110 ヨロのカギ
女王と兵隊がいます
熱中し過ぎると依存症に
実際の力量のこと
米国青春小説の古典的名作
「……畑でつかまえて」
亀の……よりの……
カツオ一本釣り漁法のえき

20191716 1513
名画「叫び」の作者
警察、消防、税務、共通点
とは、

23 ヌテのカギ
宙返りともいいます
1「紫陽花」って読めますか
2「物事」の程度を示す割合
3「……介……類……群」
4「……」を米軍飛行場
が占める沖縄県の……島
5茶色です

22 212018161412108 6
夫は……16世
椅子なし……パーティー
米1トドル紙幣の人物は？
1……は8ヒット
男性です
産長土肥の肥は今の……県
面積の約35%を米軍飛行場
が占める沖縄県の……島
原子番号50の元素